

PTA リサイクル品回収活動で見える“芳野の人情”

8月17日、芳野小中 PTA 主催のリサイクル品回収活動がありました。早朝から多くの保護者や小中学生の皆さんが JA 熊本市芳野支店に集結し、各地区から集めてこられたリサイクル品を仕分けして対応しました。

SDGs 目標 11 につながるリサイクル品回収活動



SDGs-持続可能な開発目標-という言葉をご存じだと思います。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことです。本小中学校 PTA のこの取組は、SDGs の 17 目標のうちの目標 11 -住み続けられるまちづくりを- にあたるとしています。このリサイクル品回収活動は、この目標 11 の具現化であり、時代の要請に適した行事です。それを、校区挙げての活動するところに、さらに意義深いものを感じています。

芳野の人情が伝承されるリサイクル品回収活動

この活動は、時代にマッチした活動というだけではありません。私はリサイクル品回収活動に参加するたびに、芳野地域のよさを「芳野の人情」が伝承される貴重な機会になっていると感じています。

早朝開始とはいえ、この時期のリサイクル品回収活動は体力や気力をかなり使います。そのような状況でも、保護者の皆さんも小中学校の子どもたちも、そして学校職員も、愚痴を言うこともなく活動しました。芳野小「まごころ」運動の観点からいうと、皆「『ことば』の心」を發揮していたからだと思います。

自主積極な姿

会場の中央には次々とトラックが到着します。そのトラックを待ち受けていた人たちが取り囲みます。各々、手にしたリサイクル品を運ぶと、各コーナーでもそれらを待ち受けてる人がいます。

運ぶ人も処理をする人も、誰かに指示されて活動しているわけではありません。皆、自主的に持ち場について活動を始めます。その様子が見事です。

自主積極—この姿勢が大人から子どもへと受け継がれています。つまり、リサイクル品回収活動は、自分たちの町を住みよくしようという「自主積極」の姿勢を受け継ぐ貴重な場になっているのです。

協働的で温かい姿

トラックからの荷下ろしも瓶や古紙の処理も、それぞれが自分のペースで行われます。それでいて、全体のペースは乱れません。その理由は、協働的な活動がなされているからです。

例えば、たいていの場合、古紙はきつく束ねられて運び込まれます。素手で紐を解くには時間を要します。すると、その脇からサッとをはさみが出てきて紐を切断します。気づいた人が支援するのです。

これは日頃の学校で子どもたちも見せてくれる姿です。協働的で温かい姿勢—リサイクル品回収活動抜きでは語るできないと思いました。

芳野の人情を子どもたちに伝えているのは、紛れもなく保護者の皆様です。保護者の皆様の一挙手一投足が、子どもたちによりよい人格を育てています。ありがとうございます。

年 2 回の活動ですが、芳野校区に住む子どもたちに芳野の人情が引き継がれるために、そして、芳野校区のよりよいまちづくりのために、今後も続いていってほしい行事だと思っています。

【お礼】リサイクル品回収活動当日も暑い朝でした。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。*九月八日のサンデーグリーンタイムもお世話になります。